【V・ファーレン長崎】2024Jリーグ新人研修　クラブ運営サポート活動レポート
モヨ マルコム強志、七牟禮 蒼杜、西村 蓮音

2024 年 4 月 22 日（月）、諫早市の小学校で、モヨ マルコム強志 選手、七牟禮 蒼杜 選手、西村 蓮音 選手が、諫早市小学校全校訪問プロジェクトのクラブ運営サポート活動を行いました。

・関連部署：スポーツ推進部タウン推進課

・活動内容、目的
今シーズンでのホームスタジアムの移転に伴い、スタジアムが諫早市から長崎市に変更となる。長きにわたってお世話になった諫早に感謝を伝える、子どもたちに夢を与える、プロクラブが長崎県にあることを誇らしく思ってもらうことを目的として、諫早市内の小学校 28 校全てにトップチーム選手が訪問し、職業講話やサッカー教室を行う。

◎選手のコメント
モヨ マルコム強志 選手（諫早市立上山小学校）
生徒の皆さんの前でのリフティング披露が、とても緊張しました。

七牟禮 蒼杜 選手（諫早市立飯盛西小学校）
サッカー経験者 0 人で驚きましたが、これを機に 1 人でもサッカーを始めてくれると嬉しいです。

西村 蓮音 選手（諫早市立小野小学校）
自分自身が、小さい頃に憧れたサッカー選手という立場になったことを改めて感じました。

写真提供／V・ファーレン長崎

【V・ファーレン長崎】2024Jリーグ新人研修　シャレン！活動レポート
七牟禮 蒼杜、西村 蓮音

2024 年 8 月 27 日（火）から約 2 ヶ月間に渡り、長崎県諫早市で、七牟禮 蒼杜 選手、西村 蓮音選手が、SDGs & サッカー体験教室のシャレン！活動を行いました。

① 地域・社会課題：
低所得層の家庭の子どもたちは、習い事をする経済的・時間的余裕がなく、教育機会が限定されている傾向にある。また、プロサッカークラブとの接点も少ない。

② 協働者： 諫早市スポーツ振興課／諫早市こども支援課
株式会社モルテン／V・ファーレン長崎後援会／V・ファーレン長崎

③ 活動概要や内容、目的
V・ファーレン長崎は、大きく以下の流れで今回の活動を実施しました。

① 大テーマの選定
選手たち自身が主体となって、どのような活動を実施したいか話し合いを実施した。
その中で、「恵まれない家庭環境の子どもたちに夢を持つ大切さを伝えたい」という想いが一致したため、「子どもたち」を対象とした活動をすることとした。

② 活動を実施する拠点決め
過去 11 年間スタジアム拠点としていた諫早市から、今年の 10 月に長崎市のピーススタジアムにホーム拠点が移転した。長年お世話になった諫早市への感謝の気持ちも込めて、”諫早市の”子どもたちを対象にすることとした。

③ 活動内容の決定
諫早市に聞き取りを実施した際、クラブの取り組みで期待することは「サッカー選手だからこそ出来ること」だった。低所得家庭の子どもたちに対して、物的支援等も検討したが、”サッカーを通じて”ということを重視して、今回の My Football Kit を活用した教育機会の提供をテーマに決定した。

低所得世帯の子どもたちを対象に諫早市協力のもと参加者を募り、8/27(火)に 24 名の子どもたちと一緒に My Football Kit の組み立てを通じて SDGs 学習（「質の高い教育」「つくる責任・使う責任」）を実施し、その後サッカー教室で実際に身体を動かす楽しさを体感できるイベントを実施した。
イベント中に作成したボールは、「夢を持って生きる」という選手たちのメッセージを込めて 2 選手のサインと作成者本人の夢を記入してプレゼントを実施。
その後、10/3(木)に今回のイベントに協賛いただいた V・ファーレン長崎後援会、11/15(金)に諫早市役所にそれぞれ活動報告と表敬訪問を実施し、活動終了とした。

◎選手のコメント

七牟禮 蒼杜 選手

今回新人研修として、諫早市と連携して恵まれない環境の子供たちに、夢を与えるという意義で、再生可能のサッカーボールを作るという活動を行いました。今回の活動で、自分がサッカー選手として、夢を与える影響力があるということを、改めて感じました。自分も、小さい頃に宮崎で行われていたキャンプで、たくさんのサッカー選手を見て、憧れていた頃を思い出して、不思議な感覚になりました。

今回の活動を通して、プロスポーツクラブと、ホームタウンと連携することによって、様々な形で地域に貢献することができることを知り、プロクラブの存在の大きさを感じました。そして、プロスポーツ選手は改めてたくさんの人に影響を与えている以上、自覚を持った行動をする必要があると思います。

これから、自分としても少しでも貢献できることがあると思うので、

行動をしていきたいです。

今回の活動では、サッカーを経験したことない子がほとんどでした。ですが、その中の 1 人の子が、今回の活動を通して、サッカーの楽しさを感じてもらい、その 1 か月後の公開練習に来てくれていました。そして、ファンサービスの時に、あの活動をきっかけにサッカーを習い始めましたと言われて、ものすごく嬉しい気持ちになりました。それと同時にもっと活躍して夢を与えたいと思いました。

西村 蓮音 選手

まずプロサッカー選手として、子供たちと一緒にサッカーしたり、話したりして凄く楽しかったですし、元気をもらいました。モルテンさんのマイフットボールキットというものが発売されていることを自分自身初めて知りました。SDGs に取り組みで、最初に話し合って決めたテーマと一致していた部分もあり、ボールを組み立てるという行動だけで SDGs に関われていたので凄くいい活動だったなと思いました。

集まってくれた子供たちは全員がサッカーが好きだったり、実際に習っていたりとかではなかったため、初めはちゃんと楽しんでもらえるかなと不安がありました。しかし、様々な子供たちとボールを作り、運動をし、サッカーをしていくうちに子供たちの笑顔が見れたことが一番の喜びだったことを覚えています。また、この活動を機にサッカーを始めたという子が公開練習の日に見に来てくれていて、報告をしてくれて凄く嬉しかったですし、やりがいをすごく感じたと同時に、自分自身ももっと活躍して頑張らないとなと感じました。これからもプロサッカー選手として生活していく上で、子供たちに夢を見させることは自分の仕事だと思っています。

写真提供／V・ファーレン長崎

V-VAREN
NAGASAKI